

DataSpider CELF Adapter *for EAI* 操作ガイド



第 1. 0 版

目次

1. はじめに.....	2
1.1. 本書について.....	2
1.2. 動作環境.....	3
2. 機能概要.....	4
2.1. CELF アクション	4
3. 作成方法.....	5
3.1. CELF アクションを用いた DataSpider とのサンプル連携 (XML 形式)	5
3.1.1. サンプルシナリオ.....	5
3.1.2. 事前準備.....	5
3.1.3. シートの作成.....	5
3.1.4. CELF から呼び出されるスクリプトの作成	13
3.1.5. CELF から呼び出される際のトリガーの作成	20
4. 操作方法.....	23
4.1. CELF からのテスト実行	23
4.1.1. テスト実行.....	23

1. はじめに

1.1. 本書について

本書では、DataSpider CELF Adapter *for EAI* をインストールするユーザを対象として、DataSpider CELF Adapter *for EAI* の設定方法、操作方法について説明します。

1.2. 動作環境

対象 OS

DataSpider CELF Adapter *for EAI* は以下の OS での動作をサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003 R2 以降 (x86)
- Microsoft Windows Server 2008 (x64)、R2 (x64)
- Microsoft Windows Server 2012 (x64)
- Microsoft Windows 7 (x64)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6 (x64)
- Cent OS 6 (x64)

DataSpider Servista バージョン

DataSpider CELF Adapter *for EAI* は以下のバージョンの DataSpider が導入されている環境を前提としています。

- DataSpider Servista 4.0 以降

対象 CELF バージョン

DataSpider CELF Adapter Option *for EAI* は以下バージョンの CELF バージョンをサポートしています。

- 1.0 以降

CELF 拡張オプション

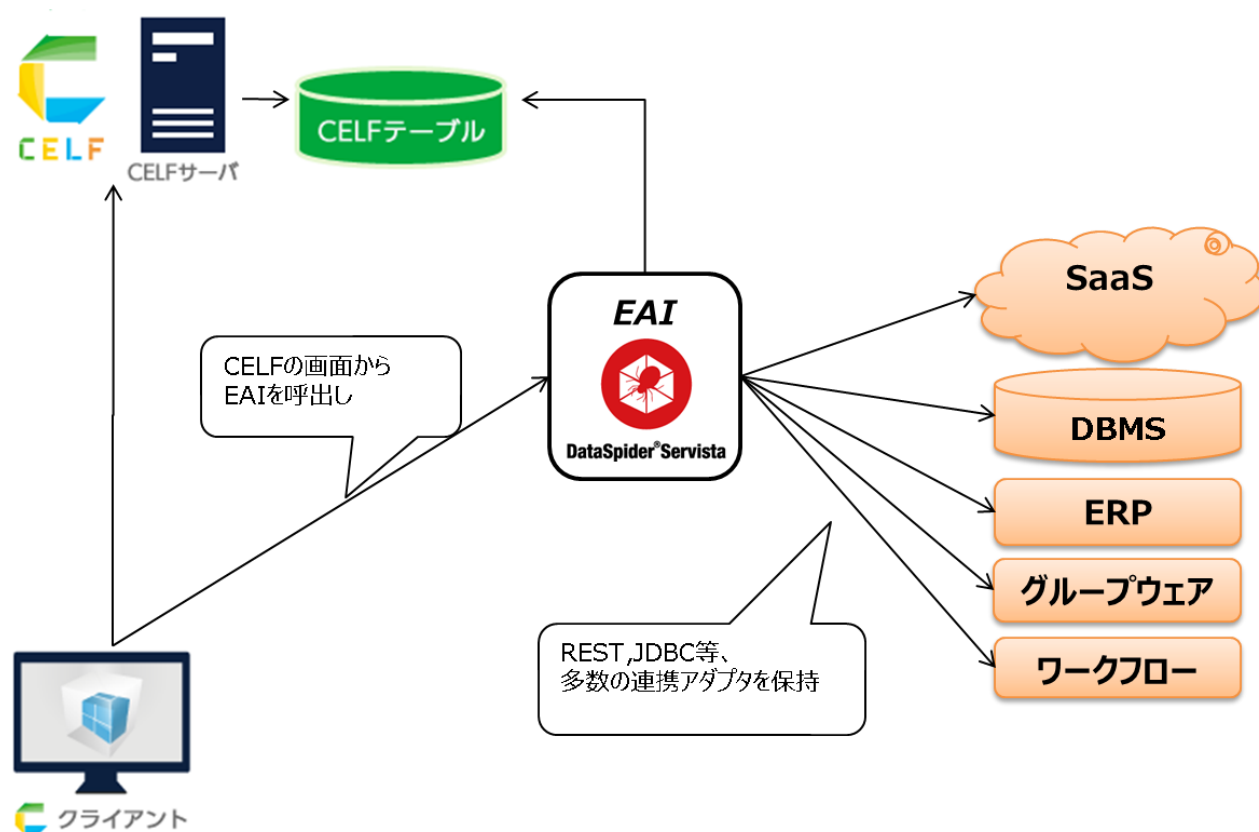
CELF の拡張オプションに以下のファイルが登録されていることを前提とします。

- celf-dataspider-extension.zip

2. 機能概要

2.1. CELF アクション

DataSpider CELF Adapter for EAIは、CELf のDataSpider 専用アクションから、DataSpider に対して HTTP リクエストを行う機能です。



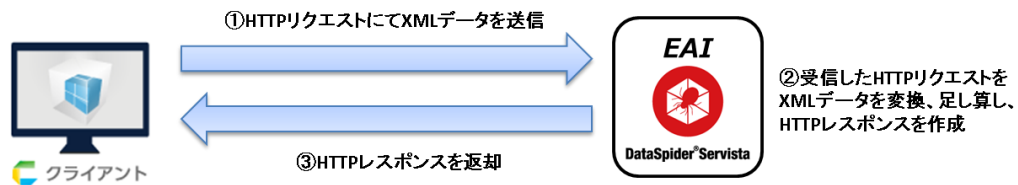
3. 作成方法

3.1. CELF アクションを用いた DataSpider とのサンプル連携 (XML 形式)

3.1.1. サンプルシナリオ

CELF 上の画面の「入力データ」に値を入力し、「実行」ボタンを押下すると、実行時刻と「入力データ」に入力した値と 1 から 9 までの数字を足した値を表示するサンプル連携を実装する手順を以下に示します。

■ 処理概要



3.1.2. 事前準備

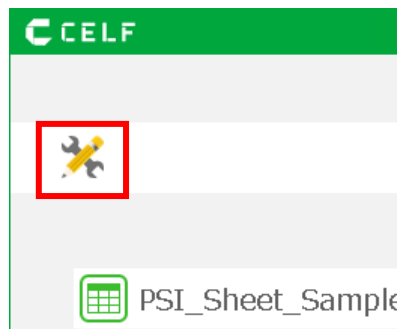
- ① 以下の設定値を予め設定しておきます。

実行パス : HTTP トリガーにて DataSpider のスクリプトを実行する際のパス

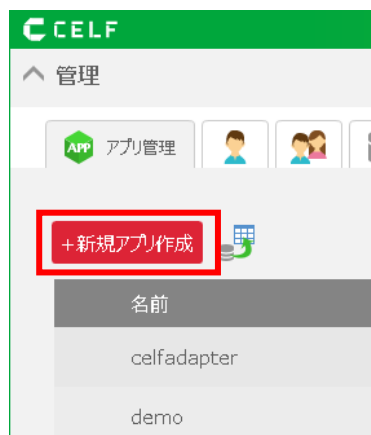
3.1.3. シートの作成

- ① 「企業 ID」、「ユーザー ID」、「パスワード」を入力し、CELF にログインします。

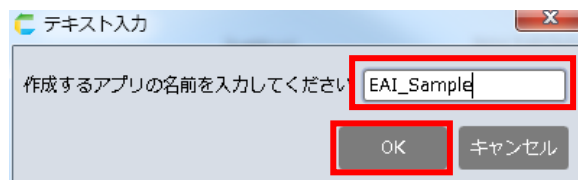
- ② 左上の「管理」を押下します。



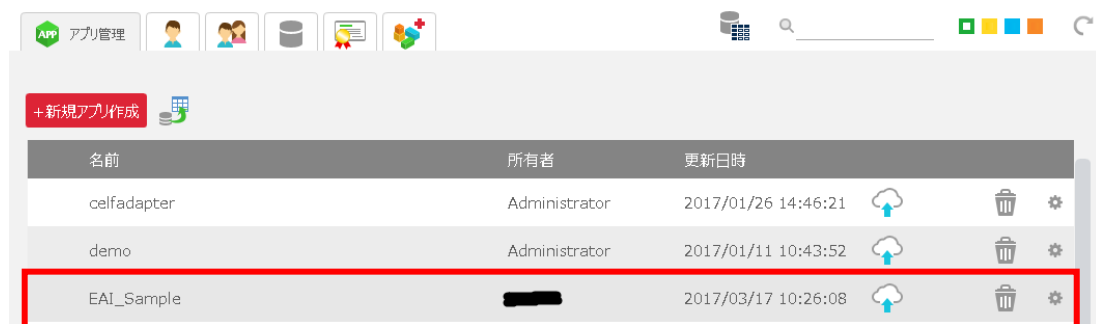
- ③ 「+新規アプリ作成」を押下します。



- ④ アプリ名を設定します。



- ⑤ アプリ一覧画面に作成したアプリが追加されていることを確認し、追加したアプリを押下します。



- ⑥ 「+新規シート作成」を押下します。



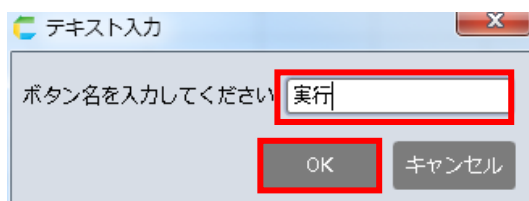
- ⑦ 以下のようなシートを作成します。

	A	B	C	D	E	F
1		CELIF-DataSpider連携サンプル				
2						
3		入力データ				
4						
5		実行時刻				
6		出力データ				
7						
8						
9						

- ⑧ ボタンを設定したいセルを選択した状態で、メニュータブの「入力形式」の「ボタン」を押下します。



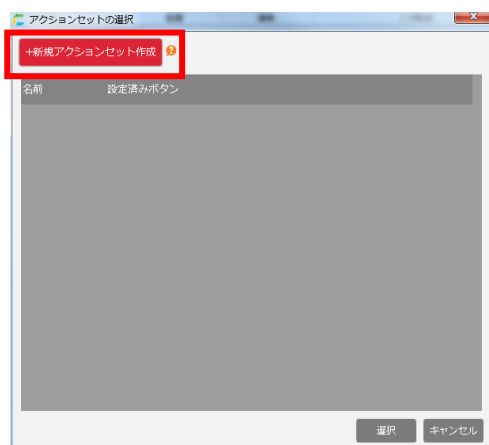
- ⑨ ボタン名を入力し、「OK」を押下します。



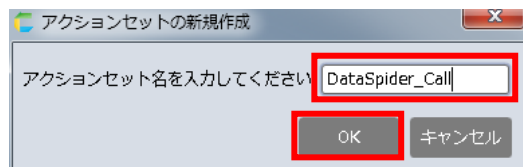
- ⑩ 上記で設定したボタンを押下し、対象のボタンにアクションセットを設定します。

	A	B	C	D	E	F
1		CELF-DataSpider連携サンプル				
2						
3		入力データ			実行	
4						
5		実行時刻				
6		出力データ				
7						
8						
9						

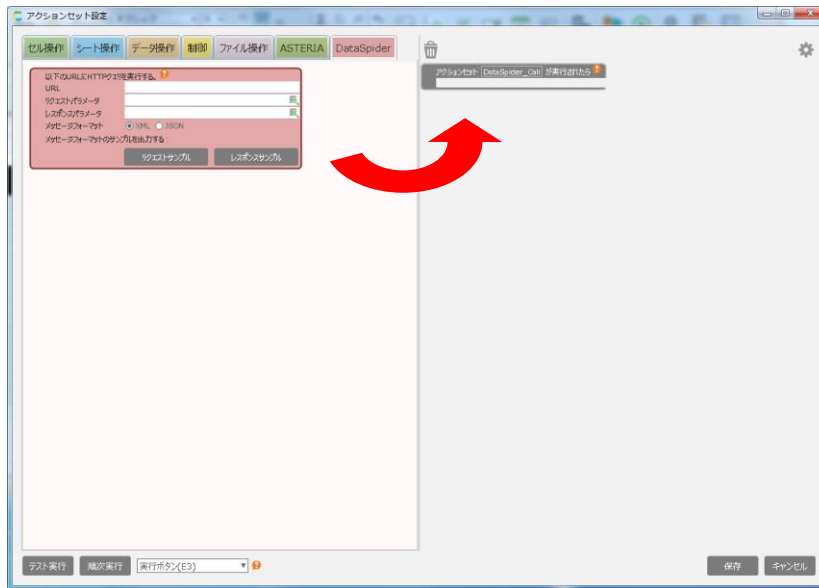
- ⑪ 「+新規アクションセット作成」を選択します。



- ⑫ 「アクションセット名」を入力し、「OK」を押下します。



- ⑬ 「DataSpider」タブを選択し、アクションをアクションセットにドラッグ&ドロップします。



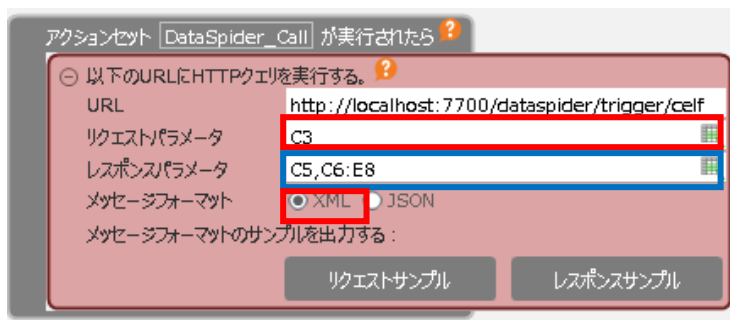
- ⑭ 「3.1.2 事前準備」にて決めた値を基に、各の値を入力し、「リクエストサンプル」を押下します。

URL : `http://[DataSpider サーバホスト]:[ポート番号]/dataspider/trigger/[実行パス]`

リクエストパラメータ : DataSpider への入力値を入力するセル

レスポンスパラメータ : DataSpider からの出力値を出力するセル

メッセージフォーマット : XML



※JSON 形式は非対応です。JSON を選択した場合には、手動でスキーマを設定する必要があります。

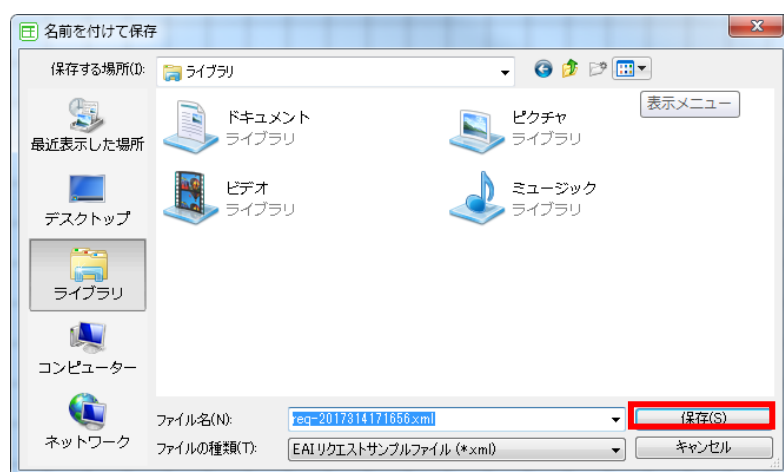
※サンプルの場合、リクエストパラメータとレスポンスパラメータは以下の通りとなります。

	A	B	C	D	E	F
1		CELf-DataSpider連携サンプル				
2						
3		入力データ				
4						
5		実行時刻				
6		出力データ				
7						
8						
9						

リクエストパラメータ

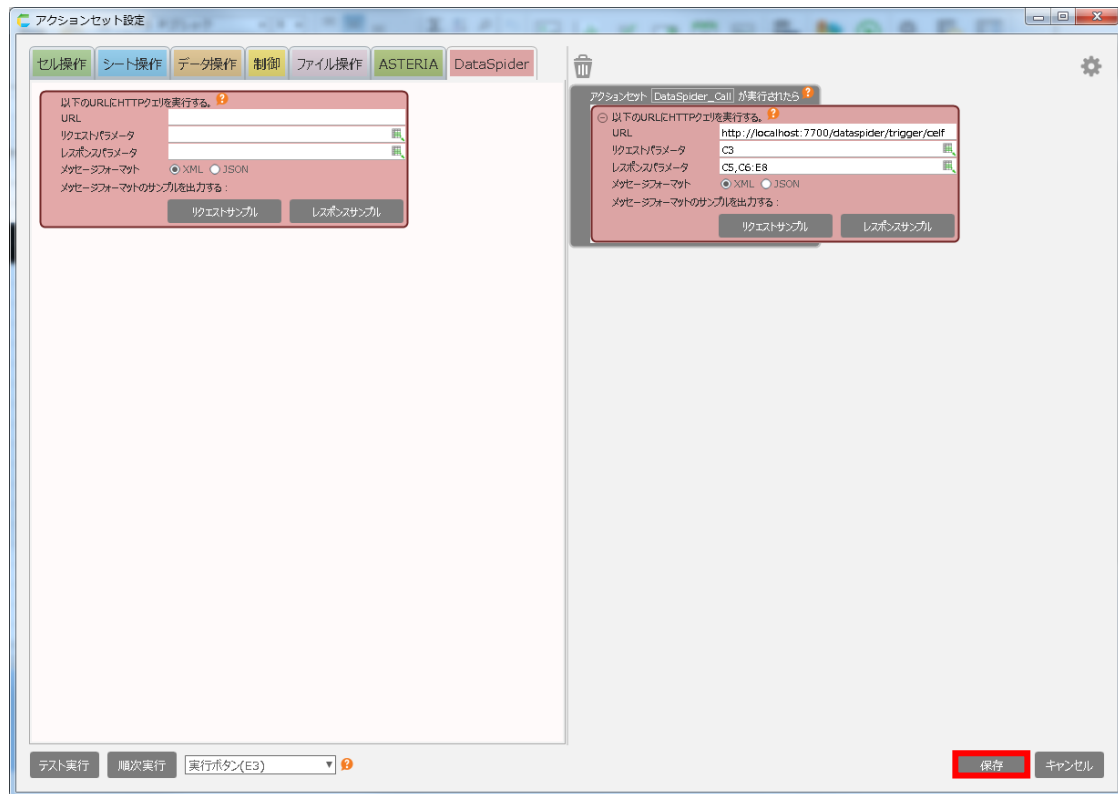
レスポンスパラメータ

- ⑮ 「保存」を押下し、リクエストパラメータのサンプルデータをファイル出力します。

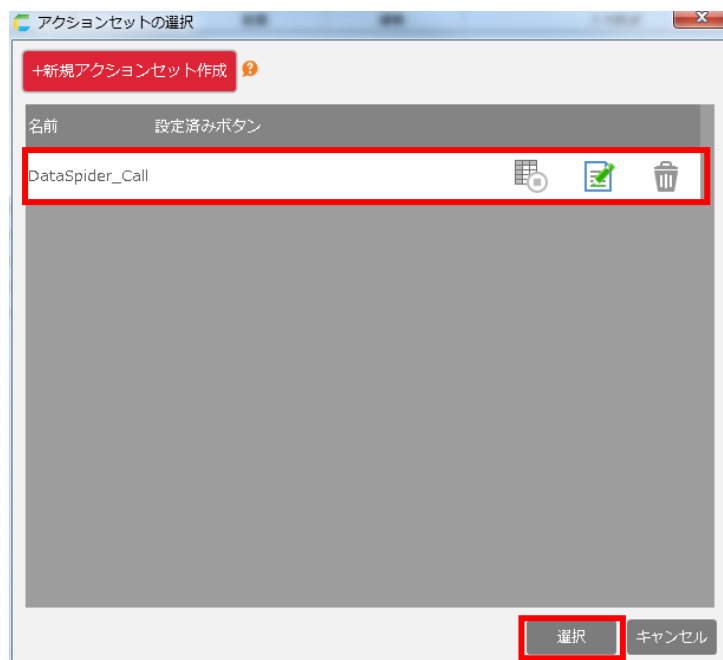


- ⑯ 同様に、「レスポンスサンプル」についてもファイルを出力します。

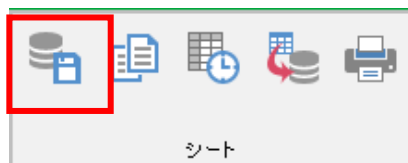
- ⑪ 元の画面にて、「保存」を押下します。



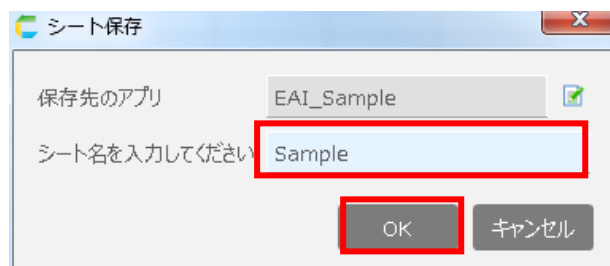
- ⑱ 上記で作成したアクションセットを選択し、「選択」を押下します。



- ⑲ メニュータブの「シート」の「保存」を押下し、作成したシートを保存します。

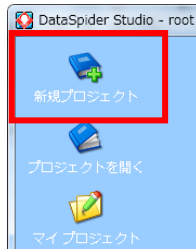


- ⑳ シート名を設定し、「OK」を押下します。

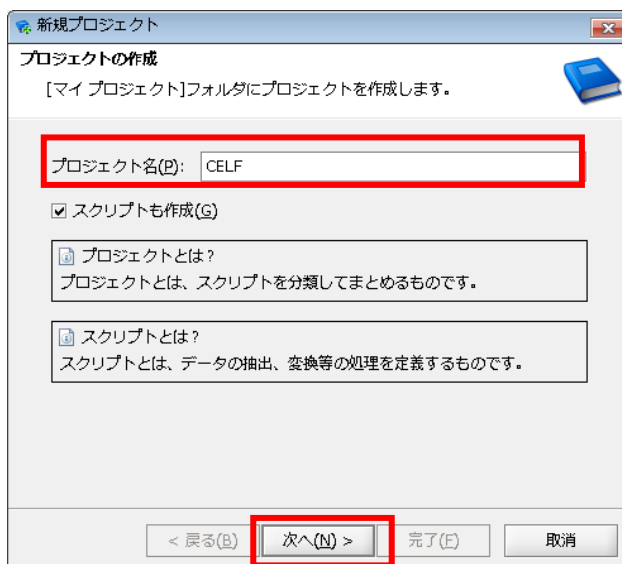


3.1.4. CELF から呼び出されるスクリプトの作成

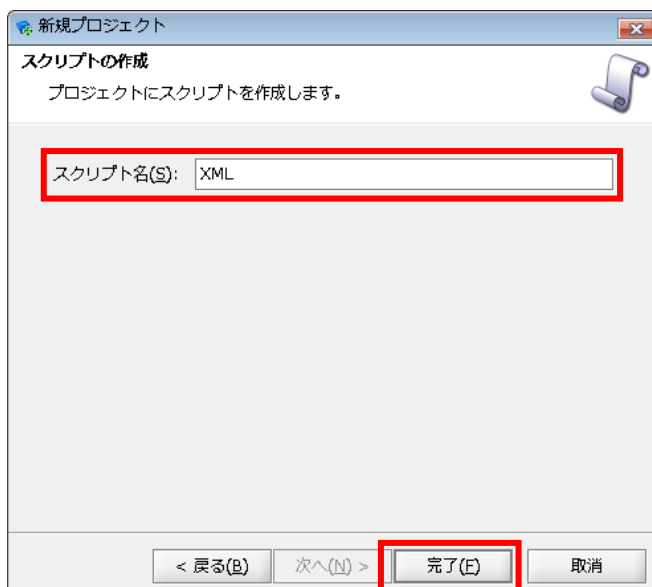
- ① DataSpider Studio にログインし、「新規プロジェクト」を押下します。



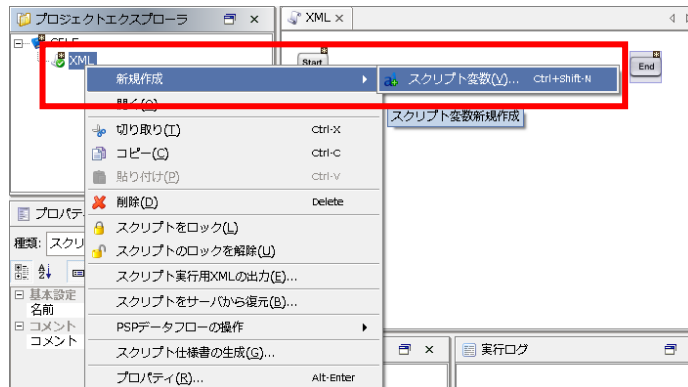
- ② 「プロジェクト名」を入力し、「次へ」を押下します。



- ③ 「スクリプト名」を入力し、「完了」を押下します。

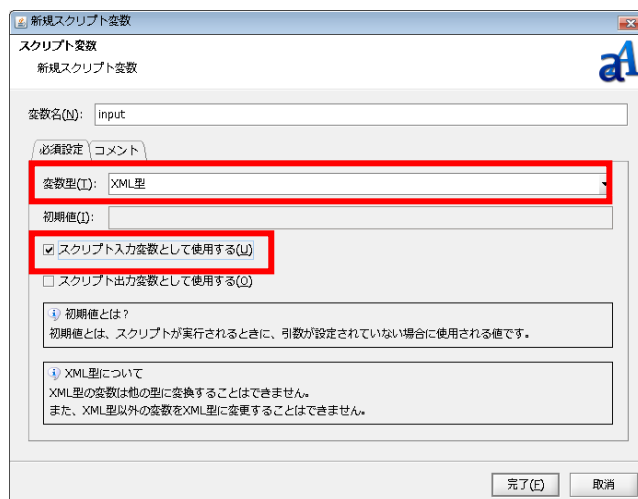


- ④ 作成したスクリプトの選択し、右クリックメニューから「新規作成」→「スクリプト変数」を押下し、入出力を設定します。

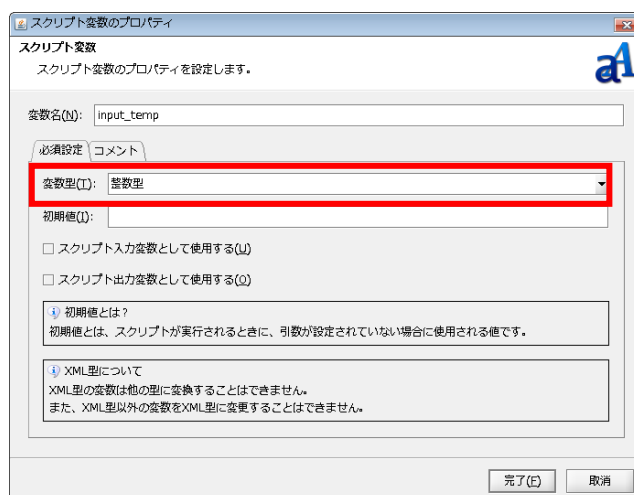


- ⑤ スクリプト変数は入力および出力は以下の通りに作成します。

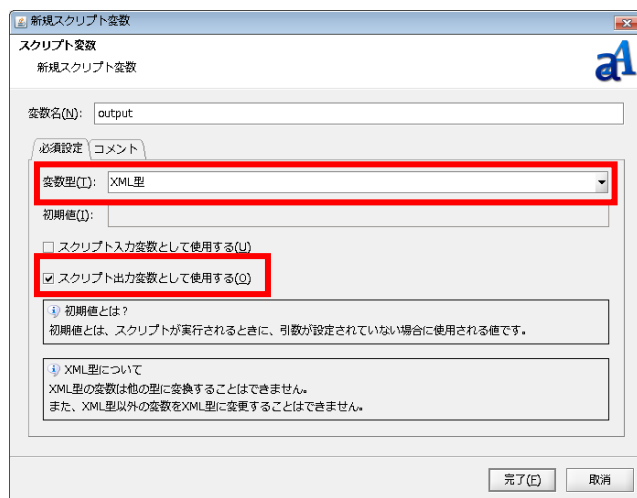
■入力変数（XML 型）



■入力変数（整数型）



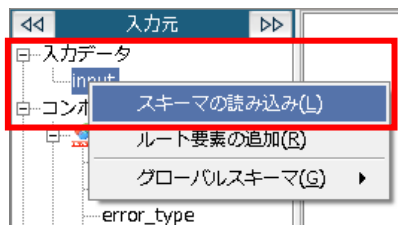
■ 出力変数 (XML 型)



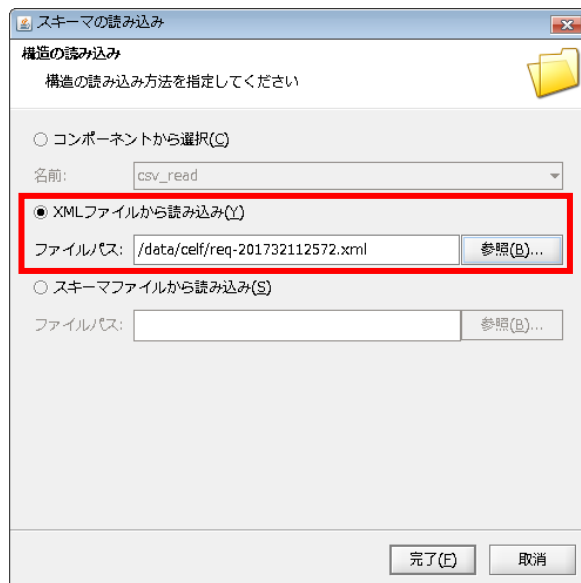
⑥ 以下のようなスクリプトを作成します。



⑦ Start コンポーネントの次にドキュメント Mapper コンポーネントをダブルクリックし、マッピングキャンバスを開き、スクリプト変数 (input) を選択し、右クリックメニューから「スキーマの読み込み」を選択します。



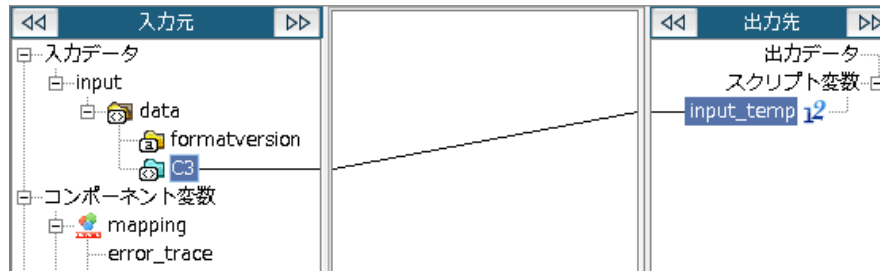
- ⑧ 「XML ファイルから読み込み」を選択し、「3.1.3 ⑬」で出力したファイルを指定し、「完了」を押下します。



- ⑨ スクリプト変数 (input) 以下に読み込ませたスキーマが表示されることを確認します。

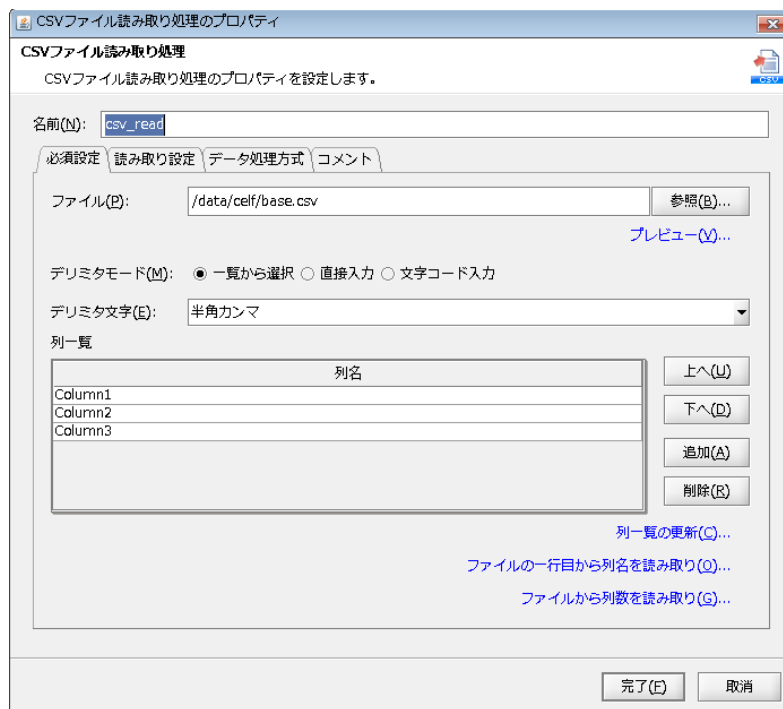


- ⑩ 当該 Mapper にてリクエストパラメータから受け取ったパラメータを別のスクリプト変数へ代入します。

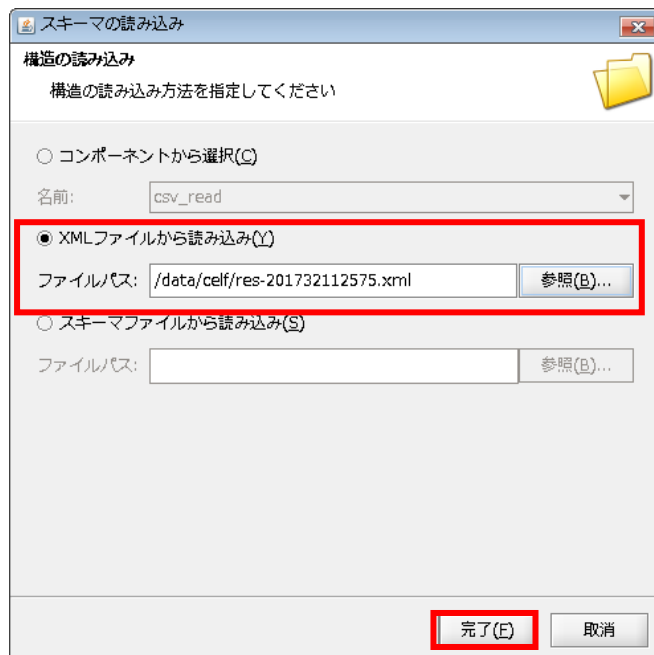


- ⑪ 次に、以下のように csv ファイルに定義された 1 - 9 までの数字を CSVRead コンポーネントで読み込みます。

	A	B	C
1	1	2	3
2	4	5	6
3	7	8	9
4			



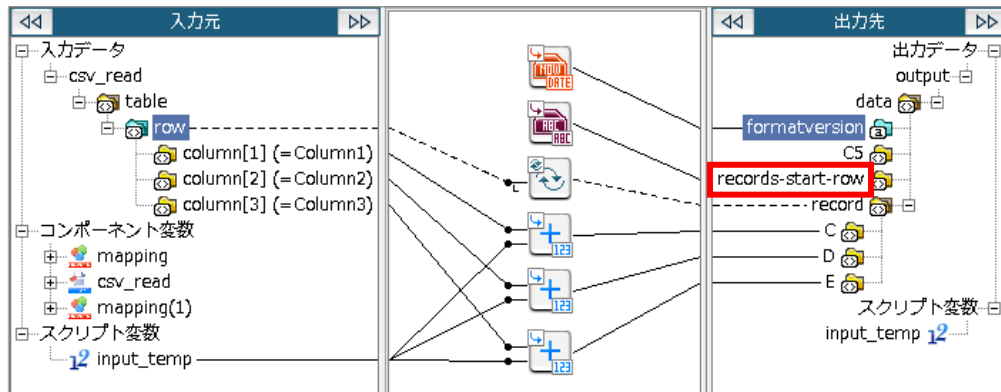
- ⑫ End コンポーネントの前のドキュメント Mapper コンポーネントでも同様にスクリプト変数 (output) に「3.1.3 ⑬」で出力したファイルを用いてレスポンスパラメータ用のスキーマを読み込みます。



↓



- ⑬ レスポンスパラメータのスキーマを読み込んだ後、以下のようにマッピングします。



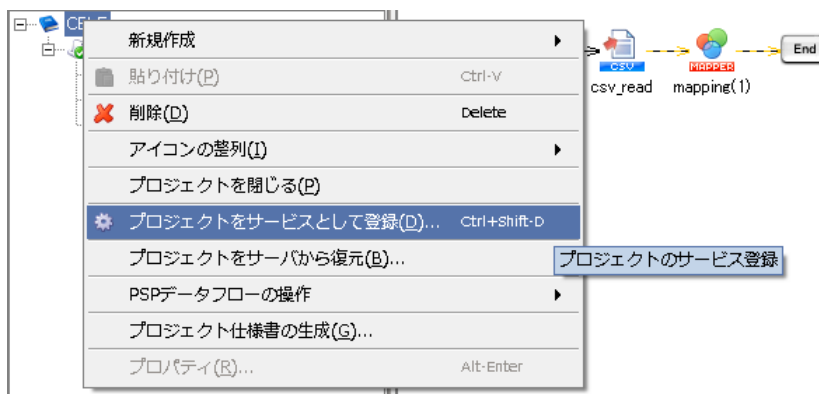
※ 「records-start-row」は繰り返し項目が開始される行を指定します。

サンプルの例では6行目から繰り返し項目が開始されるため、「6」を代入しています。

	A	B	C	D	E	F
1		CELIF-DataSpider連携サンプル				
2						
3		入力データ			実行	
4						
5		実行時刻				
6		出力データ				
7						
8						
9						

6行目

- ⑭ スクリプトを保存し、プロジェクト名の右クリックメニューから「プロジェクトをサービスとして登録」を選択し、サービスに登録します。

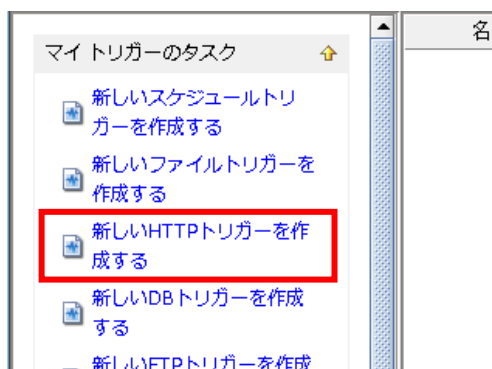


3.1.5. CELF から呼び出される際のトリガーの作成

- ① DataSpider Studio のデスクトップにある「マイトリガー」を選択します。



- ② 左ペインにある「新しいHTTPトリガーを作成する」を押下します。



③ 以下のように設定し、「次へ」を押下します。

HTTPトリガー

HTTPトリガーの設定

Webからのアクセスによりスクリプトを起動します。

トリガー名(I): celf

実行パス(P): celf

正常終了時の動作

- ☒ スクリプトで生成されたページを返す(Q)
- ☐ 別ページへフォワードさせる(F)

異常終了時の動作

- ☒ ウェブサーバのエラーページを返す(E)
- ☐ 別ページへフォワードさせる(B)

上記設定の説明

http://127.0.0.1:7700/dataspider/trigger/celf アクセス時にスクリプトが起動されます。

リクエスト設定

エンコーディング(Q): UTF-8

レスポンス設定

エンコーディング(S): UTF-8

Content-Type(C): text/html

☐ ファイルとして出力(I)

☐ ファイル名をトリガー変数で指定する(V)

ファイル名(L):

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) 取消

※中程にあるメッセージ「上記設定の説明」に記載されている URL が「3.1.3 ⑭」で設定した値と同じになるように設定します。

- ④ 「実行内容の設定」では以下の通り設定し、「完了」を押下します。

HTTPトリガー

実行内容の設定

トリガー発火時に実行される処理内容を設定します。

トリガー所有者(O): root

実行ユーザ名(U): root

パスワード(W):

サービス(S): root@CELF

スクリプト(C): XML

スクリプト引数(A):

変数名	型	値
input	XML型	\${trigger.inputData}

スクリプト出力(O):

変数名	型	値
output	XML型	\${trigger.outputData}

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) 取消

- ⑤ 以下のポップアップが表示されるので、「はい」を押下し、トリガーを有効な状態で登録します。

トリガー有効の確認

トリガーを「有効」な状態で登録します。
「無効」状態で登録する場合は、いいえを選択してください。

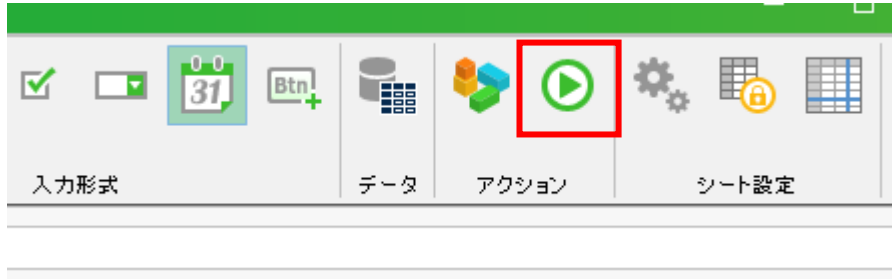
はい(Y) いいえ(N)

4. 操作方法

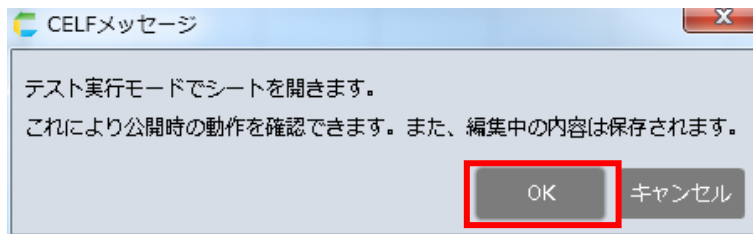
4.1. CELF からのテスト実行

4.1.1. テスト実行

- ① 作成したシートを開き、メニュータブの「アクション」の「テスト実行」を押下します。



- ② 以下のポップアップが表示されるので、「OK」を押下します。



- ③ テスト画面に遷移するので、入力データに値を入力後、ボタンを押下することでボタンに設定されているアクションセットが実行されます。

CELFC-DataSpider連携サンプル			
入力データ			実行
実行時刻			
出力データ			

↓

CELFC-DataSpider連携サンプル			
入力データ	2		実行
実行時刻	2017-03-22T12:27:44.193+0900		
出力データ	3	4	5
	6	7	8
	9	10	11